

委託事業実施内容報告書

平成20年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語能力を有する外国人を対象とした日本語指導者養成】

受託団体名:HOPEプロジェクト

1 事業の趣旨・目的

広島地域でも 在住が長期化している外国人が多くなってきている。主におかあさん達を対象として自分の日本語能力を更に日本語教育の視点からブラッシュアップして、母国の人たちへの地域の日本語教室、子どもたちへの学習教室、また小学校での指導協力などでそのバイリンガルの能力を活用することを目的とする。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
11月2日	呉市	7名	文化庁助成事業として	どんな講座にするか？ 特色と主旨を検討
11月14日	東広島市	5名	講座カリキュラムおよび内容	担当講師を決めて 各 回の講義内容をつめる
2月1日	呉市広	7名	前半の反省および後半への 講座内容と運営について	8日に文化庁から実施調査 にこられるにあたって。今後 の講座内容の検討
2月8日	広島市	6名	講座実施調査を受けて 来年度に向けて	講評、アドバイスを受けて 今後の講座の内容を検 討。来年度どうするか？

【写真】





(授業風景)

3 研修講座の内容について

- (1) 研修講座名 ; HOPE 日本語指導者プログラム
- (2) 研修の目標 ; 日本語能力をブラッシュアップさせることで、日常的な生活の中での専門分野（生活言語、教科学習言語、学校文化など）を持った指導者となる。地域に根ざした知識を得る
- (3) 受講者の総数 ; (17) 人
- (4) 催時間数(回数) ; 3 時間 (8 回)
- (5) 参加対象者の要件 ;

「日本語能力試験2級程度」の日本語能力を持っている人(国籍は問わない)

プログラムに全課程参加可能な人

 - * 参加者は中国人とブラジル人だけとなった。
 - * 各人の日本語能力に差があり、難しい面もあったが、正式に日本語指導を受けたことがないという点で共通していたこともあり、地域で、また日常生活の中でより有効となる日本語にスポットを当てた内容とした。
 - * 特に 12 月からの経済危機によりほとんどの参加者が解雇となったため、安定して毎回参加することが困難となった。(仕事が見つかればそちらを優先した)
- (6) 受講者の募集方法
 - ・ 公民館、留学生会館などに チラシを置いてもらった。
 - ・ ボランティアグループの代表者に チラシを郵送した。
 - ・ 地域の新聞社、放送局に広報を依頼した。
- (7) 研修会場 ; 広島市留学生会館・くれ市民協働センター・広島YMCA
- (8) 使用した教材・リソース

日本語教育に関する参考書、テキスト、問題集他
- (9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
----	----------	----	------

1月17日 10:00～ 13:00	日本語指導者養成 講座とは？	東浄小学校 非常勤講師 二口 とみゑ	7名
1月25日 10:00～ 13:00	日本語指導での日本 語のしくみ	広島 YMCA 日本語学科 非常勤講師 吉本 由美	8名
2月1日 10:00～ 13:00	日本で暮らすための 情報	ワールドキッズネットワー ク代表 伊藤 美智代	11名
2月8日 10:00～ 13:00	子どもの学校に ついて	東浄小学校 非常勤講師 二口 とみゑ	6名
2月15日 10:00～ 13:00	母語と日本語 通訳と翻訳	中国交流協同組合 センター長 ウリナ	6名
3月1日 10:00～ 13:00	日本の文化・習慣を 知ろう！！	東広島市相談員 高良 マルシア	8名
3月8日 10:00～ 13:00	どこがちがうの？ (多文化理解)	東広島市相談員 高良 マルシア	8名
3月15日 10:00～ 13:00	日本語能力試験2級 を目指して	広島国際センター研修部 間瀬 いく	7名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート(感想)

- ・ 楽しかった
- ・ もっと日本語を勉強して わからない人に教えてあげたい
- ・ 仕事ができるようになりたい。
- ・ 来たいけど 遠いので 電車代を出せない。
- ・ 子ども達の手助けをしたい。
- ・ 初めて日本語の文法を勉強した。(在住 18 年の人)
- ・ マルシアさんの講座の進め方、よかったです。なごやかな雰囲気だった。
- ・ 講師からの感想
今回のように外国籍の人に限定せず、ネイティブやバイリンガルの人たちなども

参加できるような形のものがいいと思います。それぞれ必要な情報をいろいろな方向から聞けるというメリットがあるし、情報ネットワークにも役立つと思います。2 級を目指したり、介護士などを目指す講座でもいいとは思いますが・・・

② 実施主体からの研修内容結果評価

今回は初めて助成を受けての講座主催で準備の時間も十分取れず、そこへ「経済危機」という突然の社会の大波が押し寄せ、受講を希望していた人も諦めざるを得なくなったり、受講途中 解雇されたり、あるいは受講していたが仕事が見つかってそちらへ行ってしまったりとかで、予期せぬ出来事の中での講座実施となった。

ブラジル人には日本で生きていくためには「日本語を学ばなければならない」意識が強くなったことは喜ばしいことだが、時間ができた今 会場まで往復することが経済的に難しい状況になった。会場を広島だけでなく、1 回は呉市でも実施してみたが、呉在住の外国人には好評だった。

この講座が「日本語指導者養成講座」であり、それ以外の目的には適応できないというのは 今の社会状況下では非常に難しいと思った。(来年度は枠を広げていただいたようだが)

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

・ 日本語教室の開設

今回 参加して下さった外国人はそれなりの日本語能力を持っている人たちだったが、それでも日本語能力のレベルに差があって講座の運営が難しい面もあった。

せめて 2 級と 3 級レベルに分けたクラスを作ってカリキュラムを組んでみたい。

・ 電話通訳のシステムを立ち上げたので、コミュニティー通訳者の養成講座を計画している。

(11) 事業の成果

(ア) 他事業との連携

・ 通訳システムとの連携

・ 介護ヘルパー養成講座との連携

(定住者がヘルパー2 級を受けられるように)

・ 小学校の「放課後クラブ」での指導員として関わっていける

(イ) 研修後の人材活用

これまで外国人就労者は単純労働に従事し、たとえ自動車部品の会社を解雇されても携帯電話の工場へ移って、完全に就職口をなくすということは無かった。

今回の「金融危機」「大量の派遣切り」などで 広島在住のブラジル人を始め多くの外国人が職を失っている。然し 人手の足りない分野もある。特に介護・看護分野ではまだまだ 需要が満たされていない。インドネシア、フィリピンからの看護師を養成することも悪くはないが、すでに 10 年以上も日本に住み続け、いくらかの日本語が理解できて、日本の習慣にも慣れている定住者の人たちをもっと活かすべきである。

彼らの日本語をさらにブラッシュアップして もっと社会で活用すべく企業にお願いしている。また 外国人に必要な情報が適切に伝わるような社会システムを作っていく必要があると感じています。そのためにも情報のリソースともなれる人材の育成は不可欠である。

(12) 今後の課題

- ・ 資金面

今回 助成を受けて資金があるお陰で 講師の先生たちにも頼みやすく、また 教材も心置きなく求めることができた。然し 立替払いのため、100 万のお金をどう準備しておくかが大きな悩みだった。委託契約書がもう少し早く届けば 銀行での低利息による借入れも可能だったかもしれないが・・・そんな声を聞いていただいたのか、来年度からは概算払いがあるとかで喜んでいる。

- ・ 日本語教師の不足

日本で仕事を得るためには日本語が必要だということを自覚して外国人の日本語学習熱が高くなってきている。然し 教室はほとんどがボランティア教室であり、中々指導者が見つからない。広島にはYMCAやヒューマンアカデミーといったところで「日本語教師養成講座」を開講しているが、その修了者たちへの実習舞台としてもぜひ日本語教育の現場に出ていただきたい。ただ、そこをコーディネートする人材がいなかったため、需要と供給がマッチしてっていない。当講座に外国人のみならず、希望する日本人にも参加していただき、いろんな視点から授業を進めていけるような講座があってもいいのではないだろうか。